

平成 30年7月10日
国土交通省
大分川ダム工事事務所

記者発表資料



**【速報】梅雨前線に伴う7月6日からの豪雨において
大分川ダムに洪水の一部を貯留し
洪水処理の効果がありました。**

《発表概要》

- 平成30年2月20日より試験湛水中の大分川ダムにおいて、洪水の一部を貯水池に貯留したことにより、ダム下流において河川の水位を水防団待機水位（2.00m）まで上昇させないこととなりました。

＜七瀬川胡麻鶴観測所地点において河川の水位を約36cm低下＞（別紙参照）

大分川ダムへの最大流入量及び最大放流量

最大流入流量：毎秒93.86立方メートル（7日4時00分時点）

最大放流量：毎秒29.35立方メートル（7日4時00分時点）

ダム貯留量：約179.8万立方メートル（7日9時20分時点）

今市雨量観測所：総雨量192mm（6日3時～7日9時）

最大1時間雨量29mm（7日2～3時）

※上記値は速報値や推定値を含んでおり、今後の調査等により変更となる可能性があります。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 大分川ダム工事事務所

大分市舞鶴町1丁目3番30号

TEL：097-538-3391 FAX：097-538-3391

Eメール：oitagawadamu@qsr.mlit.go.jp

技術副所長 池浦 光文（内線 204）

調査設計課 課長 杉田 聡（内線 351）

大分川水系大分川ダム試験湛水中の効果（平成30年7月豪雨）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、192mm(7月6日3時～7日9時)の累加降雨を観測しました。
- 大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、最大179.8万m³(25mプール約4994杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減を図りました。
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は水防団待機水位を超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。

7月3日(EL.176.4m)



7月7日(EL.179.22m)

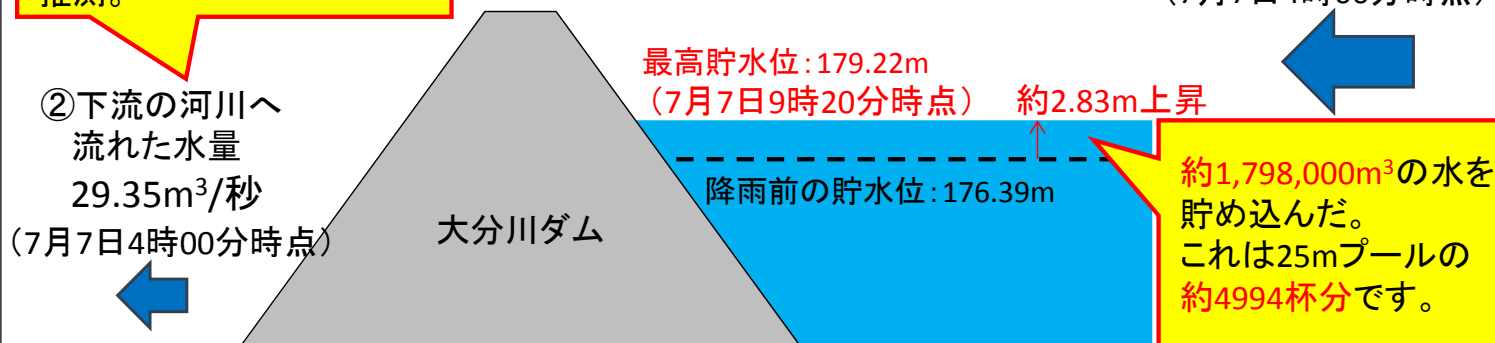


◆大分川ダムの状況

約64.51m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流れた水量
29.35m³/秒
(7月7日4時00分時点)

①大分川ダムへ流れてきた水量
93.86m³/秒
(7月7日4時00分時点)



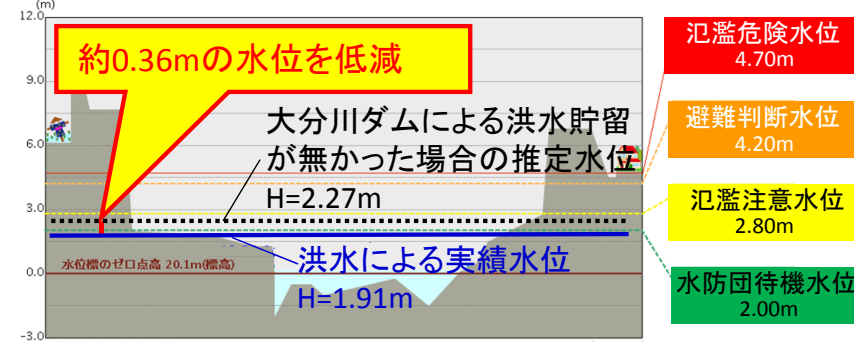
約1,798,000m³の水を貯め込んだ。
これは25mプールの約4994杯分です。

今市雨量観測所(累加雨量): 192mm(7/6 3時～7/7 9時まで)



大分川流域図

ごまづる七瀬川 胡麻鶴地点



※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。